



公益社団法人 地域医療振興協会

台東区立台東病院
台東区立老人保健施設 千束

あさがお通信

asagao-tsushin
2011 spring



台東区立台東病院
台東区立老人保健施設 千束
がんばれ東北！
がんばろう日本！！



台東区立台東病院
台東区立老人保健施設 千束
管理者・病院長
山田 隆司

震災と地域医療

3月11日午後2時46分、私は女川町立病院の週末の診療支援のために仙台に向かおうと、東京駅の新幹線ホームにいました。激しい揺れに新幹線は不通となり、復旧どころではないと判断した私は急遽台東病院へ引き返しましたが、余震もあって街の中は騒然としていました。当院は被害もなく、帰宅できないスタッフの寝床の用意と、翌日の診療に対する備えをする程度でした。一方でテレビの画面からは深刻な津波被害が伝えられ、急いで女川へ連絡するも、携帯を含め電話はすべてに一切つながりませんでした。刻々と周辺地域の被害状況が明らかになるにつれ、職員の安否が気遣われましたが、なすすべもなく気がかり焦り、不安な夜となりました。

医師不足による医療崩壊の危機にさらされていた女川町立病院の支援を始めたのは、昨年4月からです。後輩の医師を院長として送り込み、私自身も毎週月曜日に診療に赴いていました。そのような中、今回の被災です。医師を含め現地のスタッフは幸い皆無事でしたが、家もろとも家族を失った者も少なくなく、それでも被災者の救護に当たる医療者としての姿には胸を打つものがありました。

これまでに周辺の町会の皆さまからは救援物資の提供など温かいお心遣いをいただきました。また台東病院・老健千束職員も多数が現地で支援活動に従事してきました。復興はまだまだこれからです。われわれも決して安心して生活できる状況ではないのかもしれませんが、それでもさらに困っている地域に手を差し伸べる心意気を見せる時だと感じています。

シリーズになるといいな…シリーズ

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震。患者・利用者の皆さまならびにご親族、関係者の皆さまに多大なるご心配をおかけいたしました。また、東日本という広範囲にわたって被災されました多くのの方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

台東区立台東病院・老人保健施設千束では、その管理運営を行っている公益社団法人地域医療振興協会とともに、被災地の一つである女川町立病院（宮城県）を中心に支援にあたっています。多くのメディアでも報じられているとおり、交通網が遮断され、陸の孤島となり、甚大な被害を負った女川町。町立病院も大津波により、その機能の多くを失いました。冷たい床で療養しなくてはならない患者の方々、家を失い、帰って体を休めることもできずに仕事を続ける現地職員。大勢の方の混乱と不安と疲労が伝わってきました。

震災後より、当院長はじめ医師や看護師、介護士等が現地に飛び、交替で人的支援を行っているほか、医薬品や食糧・衣類などの救援物資の提供も行っています。また、千吉大島町会会の皆さまが毛布やタオル、下着などの物資集めに協力くださり、派遣された支援チームを通して現地へ送り届けることができました。受け付けました募金を含め、地域の皆さまからのあたたかいご支援に深くお礼申し上げます。

被災地の一日も早い復興を願い、当院・当施設では今後も支援に取り組んでまいります。

皆さまには引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

▼支援物資を被災地へ送り届けました

▼杉田医師が備えの大切さをお伝えしました

災害への備えと支援を呼びかけ 待合健康教室にて

月に一度、当院1階エントランスホールで開催している待合健康教室。4月は「自然災害への備えー被災体験を通してー」と題し、当院総合診療科・杉田医師が講演を行いました。

杉田医師は震災当日、女川町立病院へ出張しており、帰りの車中、宮城県内で被災しました。激しい揺れに停止した列車。津波で浸水した線路を横目に徒歩で避難所へ移動し、厳しい寒さに震えながら数日を過ごしたそうです。カップ麺を分けてくれたご夫婦、貴重なガソリンを使い、車で駅まで送ってくれた男性……自らが被災しながらも手を差し伸べてくれる方々に、杉田医師は心を打たれたといいます。そうした実体験を織り交ぜながら、普段からの準備や心構え、実際に被災した際に必要な姿勢・行動などが伝えられたホールでは、真剣な眼差しで講演に耳を傾けて下さる区民の皆さまの姿が見受けられました。

身近な問題や病気・医療について、これからも待合健康教室の開催を予定しています。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

「あさがお通信」は院内の各部署が編集を担当していきます。

今回の「あさがお通信春号」は「地域連携相談室」が担当いたしました。このたびの震災でさまざまな報道を見聞きするにつけ、医療・福祉サービスの提供と、そのための連携もまた復興に欠かせないものの一つであると感じています。丁寧かつ円滑な相談、そして連携を普段から心がけながら、区民の皆さまの安心をお手伝いできるような業務に取り組んでまいります。

台東病院・老健千束は「公益社団法人地域医療振興協会」の管理運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に開設され、2009年12月1日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：台東区立台東病院・老人保健施設 千束
〒111-0031 東京都台東区千束3丁目20番5号 / TEL 03-3876-1001

あさがお通信



台東病院の介護保険サービス 訪問リハビリテーション

併設する台東区立台東病院でも介護保険サービスの一つ「訪問リハビリテーション」を平成23年2月より開始しました。

これは、傷病や障害のために通院困難な在宅療養中の方を対象としているもので、利用者さんの症状や自宅環境・介護力等を考慮しながら、心身の機能回復や維持を目的に行うリハビリテーションサービスです。

ご利用にあたっては、まず、かかりつけ医にご相談いただくことが必要です。また、その上で、担当ケアマネジャーより当院へお申し込みくださるようお願いしています。その後は当院のリハビリテーション外来を受診いただき、必要なリハビリテーションをご案内する流れとなっています。

おおむね3ヵ月の実施期間を目安に目標を設定。リハビリの専門家が直接ご自宅を訪問し、平日13～14時の間に2単位(40分)のサービスを実施します。必要に応じ、ご家族への介護方法の指導や、福祉用具の利用・住宅改修のアドバイスなども行っていきます。

現在、訪問できるお宅はまだ多くはありませんが、区民の皆さまへのリハビリテーションの提供を目指し、今後も一層努力してまいります。



▲ご自宅の内外・実生活での練習です

具体的なサービス内容は?

リハビリテーション
老健千束には理学療法士・作業療法士などがおり、利用者さん一人ひとりの状態を見ながら、リハビリ内容を検討し、実施していきます。起立・歩行・階段昇降といった練習のほか、編み物や貼り絵といった作業療法も行っています。



▲手洗いもお手伝いします

入浴・排泄・着替え・整容など
入りやすいように整備された浴室・浴槽・トイレなどをご用意しています。できる部分はあえてご自身で、難しい部分は職員がお手伝いしながら、利用者さんそれぞれの状態にあわせて介助を行っていきます。歩くことは難しくても車イスを自分で操作して移動できるようにした、オムツだけだった方が日中はトイレで排泄できるようにした例も多々あります。

医療・看護
老健に入所されている方の日常的な医療に関しては施設が担当することになっていきます。病院と比べると医療の範囲は限られてしましますが、医師による診察や一定の処置・投薬も行っており、そのための医療系職員が特別養護老人ホームと比べて多く配置されているのも特徴です。

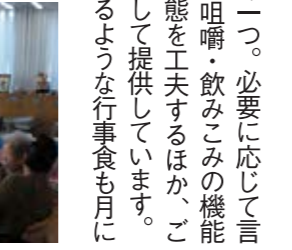


▲施設長の診察です



▲「今日は血圧も顔色もOKね!」

食事
毎日の食事は楽しみ方の一つ。必要に応じて言語聴覚士が利用者さんの咀嚼・飲みこみの機能をチェックし、食事の形態を工夫するほか、ご病気になる制限にも配慮して提供しています。季節を感じていただけるような行事食も月に一回ご用意。2月には「寿司キャラバン」と称し、にぎり寿司を楽しんでいただきました。普段はお出ししていない生ものですが、この日はかりはマグロやイカ、ホタテといった海の幸がたっぷり。



▲「おかわりはどれにしようかしら?」寿司キャラバン(ディケア)にて

園芸療法
「丹精こめて育てたよ!」園芸療法にて。また、長期間に及ぶと身体への影響が大きくなる姿勢についてもリハビリ職員がかわりまします。床ずれを予防するには体のどの部分にクッションをあてておくか、どのような姿勢をとれば少しでも安楽に座っていられるか、関節の動きを保つには……利用者さんと多くを接するフロアの介護職員と打ち合わせを行いながら、日々の快適さもお手伝いしています。

行事・レクリエーション
日常の中でちょっとした変化を利用者さん楽しんでいただけたら、行事やレクリエーションを行っています。地元おなじみの「西の市」に出掛けたり、町内会のお神輿が来てくれたり、千束保育園の園児がお遊戯の披露にきてくれたりもします。3月には「江戸情緒を楽しむ会」と題したイベントを開催。和風漫談家宮田章司さんによる江戸売り声や、南京玉すだれグループ 古娘さんによるパフォーマンスに会場は拍手喝采。粋な出し物と江戸っ子の皆さんの笑顔がマッチしたひとときでした。

行事・レクリエーション
日常の中でちょっとした変化を利用者さん楽しんでいただけたら、行事やレクリエーションを行っています。地元おなじみの「西の市」に出掛けたり、町内会のお神輿が来てくれたり、千束保育園の園児がお遊戯の披露にきてくれたりもします。3月には「江戸情緒を楽しむ会」と題したイベントを開催。和風漫談家宮田章司さんによる江戸売り声や、南京玉すだれグループ 古娘さんによるパフォーマンスに会場は拍手喝采。粋な出し物と江戸っ子の皆さんの笑顔がマッチしたひとときでした。



▲宮田章司さんの江戸売り声で会場は大盛り上がり

老健=老人保健施設ってなに?

そもそも「老人保健施設って何?」という疑問をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。
老人保健施設(略称、老健)とは、介護保険が適用される方を対象として、医学的管理の下、看護・介護、リハビリテーション、食事や栄養管理、入浴など、日常生活上のサービスを提供する入所型の施設です。病院と家庭の中間的な位置付けにあたり、可能な限り家庭への復帰を念頭におくことから、終身利用型の老人ホームとは異なるものとなっております。
また、家庭での生活継続を支援するため、通いのデイケア、泊まりのショートステイも実施しています。いずれのご利用も、病院などでの入院治療が終わり、病状が安定している方が対象となります。

どんな利用の仕方があるの?

要介護度の認定結果によって利用できるサービスが異なります。
入所療養介護(要介護1～要介護5)
老健千束では個室と多床室(4人部屋)があります。いずれかに入所し、施設ケアマネジャーがつくったケアプランのもと、一定期間を生活していただきます。
通所リハビリテーション(ディケア)
(要支援1～要介護5)
在宅で生活している方がリハビリや昼食・入浴などを受ける日帰りサービスです。朝夕の送迎も行っており、閉じこもりがちな高齢者の外出や交流の機会にもなっています。
※要支援の方は「予防通所リハビリテーション」というサービス名になります。
短期入所療養介護(ショートステイ)
(要支援1～要介護5)
在宅で生活している方が利用できるお泊り



▲リフト付の軽自動車で狭い路地も送迎



▲屋上で歩行練習も

利用するにはどうしたらいいの?

お申し込みの際には、相談員との面談や各種書類の提出などをお願いしています。お申し込みが混みあっている場合にはご利用までにお待ちいただくこともございますが、できるかぎりスピーディーな対応を心がけております。まずは老健千束の相談員や居宅の担当ケアマネジャーさんにご相談ください。
※事前に日時設定をした上での面談をお願いしております。左記まで一報くださいませ。

台東区立老人保健施設千束
電話:03(3876)1002
FAX:03(3876)1023

台東区立老人保健施設千束をご紹介します

平成21年4月 台東区立台東病院の開設に伴い、旧老人保健施設千束を院内に移転。新老健千束としての再スタートから2年が過ぎました。今回はご存じでない方のためにその老健千束をご紹介します。